

【暗唱聖句】

創世記 17:7 「わたしは、あなたとの間に、また後に続く子孫との間に契約を立て、それを永遠の契約とする。そして、あなたとあなたの子孫の神となる。」

【日曜日・ヤハウェと「アブラハム契約」】

創世記 15:7 「主は言われた。「わたしはあなたをカルデアのウルから導き出した主である。わたしはあなたにこの土地を与え、それを継がせる。」

神様はアブラハムにカナンの土地を与えると契約された際に、ご自分のことを、「わたしはあなたをカルデアのウルから導き出した主である」と言われました。「主」と訳された言葉は、「ヤハウェ」という言葉が書かれてあります。ヤハウェは、「存在する」というヘブライ語のハヤーが変化したものだと考えられています。神様は永遠に存在しておられる方であり、同時に他のものを存在させることのできる方でもあります。これは、実存しない偶像の神々とは全く異なる点の一つです。モーセが主に名前を訪ねたとき、主は「わたしは、あつてある者」と言われ、「ヤハウェ」の意味を明らかにされました。聖書の時代の中近東において、名前が意味することはとても重要でした。それはその人の特徴を現わすか、名付け親の思いや感情を現わすか、名づけられた時代を反映するものでした。神様の名であるヤハウェは、神様がどのようなお方であるかが、現わされています。昨日も今日も明日も変わることなく存在し、いつでもどこにでも存在することができ、私たち一人一人といつも共にいてくれる存在であるということを実わしています。イエス様は、インマヌエルと呼ばれましたが、その意味はやはり「神様は私たちと共におられる」でした。

【月曜日・エル・シャダイ】

創世記 17:1 「アブラムが九十九歳になったとき、主はアブラムに現れて言われた。「わたしは全能の神である。あなたはわたしに従って歩み、全き者となりなさい」

神様はアブラハムが 99 歳となったとき、つまりイサクが生まれる 1 年前に重要なメッセージを語られます。まず神様は、ご自分が「エル・シャダイ」、全能の神であると言われました。このような表現により、人間がいかに取りに足らない無力な存在であるかが対比されています。次に、神様はアブラハムに対して、「あなたはわたしに従って歩み、全き者となりなさい」と言われました。直訳は、「あなたは私の顔の前を歩み、全き者となりなさい」です。全き者とは、神様の御顔の前にいつも生きている者のことを言うのです。罪を犯したアダムは、園の中で神様の顔を避けました。また、あまりにも神様に逆らう人たちに対して、神自ら御顔をそむけられたこともありました。しかし、小さな子供に対して親が目の届くところにいるように、私たちは神様の御顔の前に生きるとき安心なのです。そして、いつも神様の御顔の前に生きることができる関係を、神様と築いていることが大切なのです。それ抜きに、完全などありえないのです。

創世記 17:6 「わたしは、あなたをますます繁栄させ、諸国民の父とする。王となる者たちがあなたから出るであろう」

1 年後に息子イサクが生まれ、イサクからヤコブが生まれ、ヤコブから 12 部族の始まりとなる息子たちが生まれます。そして、どんどん繁栄し、数が増し、やがてはダビデやソロモンなどの王となる者たちさえ誕生するとの預言的約束です。エル・シャダイ、全能なる神様だけができる約束です。

【火曜日・アブラムからアブラハムへ】

神様の名前には大切な意味があるように、イスラエルの人々の名前もしばしば親の願いや感謝が込められた短い言葉

からなっていました。たとえば、ダニエルは「神様は私の裁き主」、ヨエルは「ヤハウエは神」、ナタンは「神の賜物」という意味がありました。興味深いことに、聖書の中で神様から名前を変えられた人たちがいます。それは、その人の今後の歩みを考える上で、今の名前よりも最もふさわしいと考えられたからでしょう。たとえばアブラムは、「父は高められる」という意味の名前から、「多くの民の父」を意味するアブラムに変えられました。創世記 17:6 で、「わたしはあなたをますます繁栄させ、諸国民の父とする」と言われた神様の言葉に相応しい名前です。またヤコブも、「押しのける者」という意味の名前から、「神の支配」を意味するイスラエルという名前に変えられました。

**創世記 32:29** その人は言った。「お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる。お前は神と人と闘って勝ったからだ。」

ヤコブは兄エサウとの確執から神様に助けを求めてすぎりました。神様と格闘するうちに膝の関節が外れ、跪くような恰好になりながらもなお、神様を離しませんでした。そのとき主は、「お前は神と人と闘って勝った」ので、押しのける者から、神様に支配されるものと、名前を変えられたのです。本当に勝利とは、己の無力さを知り、神様の前に跪き、神様に支配される人生となることなのです。

聖書の中には、ヨセフやダニエルのように、人によって名前が変えられてしまった人たちも出てきます。これはそれぞれの国（エジプト・バビロン）の言葉の名前に変えられたということです。

**創世記 41:45** 「ファラオは更に、ヨセフにツァフェナト・パネアという名を与え…。ツァフェナト・パネアの意味は「神は語り、神は生きておられる」。エジプトを飢饉から救ったヨセフの神をたたえています。

**ダニエル 1:7** 「侍従長は彼らの名前を変えて、ダニエルをベルテシャツアル、ハナンヤをシャドラク、ミシャエルをメシャク、アザルヤをアベド・ネゴと呼んだ」

\*4 人ともヘブライ人の神様ではなく、バビロンの神の名前が入った名前に変えられました。

#### 【水曜日・契約の段階】

創世記 12:1、2 のアブラムの召しは、神様の契約の第一段階と言えます。そこでは「生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい」と言われ、そのことによって神様はアブラハムを「大いなる国民にし、祝福し、あなたの名を高め、祝福の源となるように」すると約束されました。契約の第二段階は、創世記 15:7～18 です。15:7 において、主は「わたしはあなたをカルデアのウルから導き出した主である」と言って、アブラハムに近づかれました。そして、「わたしはあなたにこの土地を与え、それを継がせる」と天の約束をしてくださいました。

アブラハムのすべきことは、このことをただ信じることでしたが、アブラハムは神様に「わが神、主よ。この土地をわたしが継ぐことを、何によって知ることができましようか」（創世記 7:8）と尋ねるのです。すると、神様は牛と山羊と羊を真っ二つに裂いて、向かい合わせに置くように命じられます。アブラハムは言われるままにそのようにすると、その間を暗黒が臨み、まだ見ぬ子孫が 400 年もの間奴隷となり、苦しめられることを神様は告げられるのです。そして、煙を吐く炉と燃える松明が二つに裂かれた動物の間を通り過ぎ」（創世記 15:17）ていきました。当時、誓いを立てる当事者たちが、その引き裂かれた動物たちの間を通して、約束を破るようなことがあったら、自分もこの動物たちのように真っ二つに引き裂かれてもよいということを誓いました。

「わたしの契約を破り、わたしの前で自ら結んだ契約の言葉を履行しない者を、彼らが契約に際して真っ二つに切り裂き、その間を通ったあの子牛のようにする」。

確証を求めるアブラハムに、神様はこのような残酷とも思える方法でアブラハムと約束を交わしたのです。これと同じことが、十字架で再現されます。主自らがいけにえの動物となり、体を裂かれて、私たちに罪の赦しと永遠の救いを約束してくださったのです。

契約の三段階では、神様はアブラムの名前をアブラハムに変えることで、この契約の確かさと壮大な救いの計画を示されました。

「これがあなたと結ぶわたしの契約である。あなたは多くの国民の父となる。あなたは、もはやアブラムではなく、アブラハムと名乗りなさい。あなたを多くの国民の父とするからである」創世記 17:4、5

アブラハムとは、多くの国民の父という意味ですが、この中にはイスラエルだけでなく、霊的イスラエルである異邦人も含まれていますし、イスラム教徒にとってもアブラハムは特別な存在です。

#### 【木曜日・契約に伴う義務】

創世記 18:19「わたしがアブラハムを選んだのは、彼が息子たちとその子孫に、主の道を守り、主に従って正義を行うよう命じて、主がアブラハムに約束したことを成就するためである。」

主の約束が成就されるためには、条件がありました。それはアブラハムが息子たちとその子孫に、主の道を守り、主に従って正義を行うよう導くことでした。これにより神様の栄光が全世界に広がって行くことが神様の御心でした。アブラハムは信仰によってイサクが与えられましたが、そのイサクを捧げと命じられたとき、服従が求められました。アブラハムが信仰の父と呼ばれるゆえんは、信仰によってイサクを捧げよとの神様の命令に健全に服従したことです。これによりアブラハムは義とされました。さらにイサクに対して、そして孫たちに対して、主の道を守り、主に従って正義を行うよう教えることが彼の義務でした。このような神様の命令に対して、神様への愛と信仰により服従することによって、神様の約束が成就されるのでした。